

2020年3月期第3四半期決算説明資料

発表日時：2020年1月30日（木）16:30（今回、説明会の開催はございません）

【2020年3月期第3四半期連結決算の概要】

- まず、パワーポイントのスライド1をご覧ください。
- 売上高は、東京電力グループの販売電力量が減少したものの、燃料費調整額が増加したことなどにより増収となりました。
- また、経常損益は燃料費調整制度の期ずれ影響が好転したことや、グループ全社を挙げた継続的なコスト削減などにより増益となりました。
- 経常損益、四半期純損益ともに7年連続で黒字を確保いたしました。
- さらに、当期は特別損益として、2019年10月に発生した台風19号、21号による災害特別損失などを新たに計上いたしました。
- 具体的な連結決算の数字については、スライド2をご覧ください。
- 売上高は、前年同期比で1.9%増の4兆6,379億円と増収、経常損益は、26.5%増の3,099億円と増益となり、特別損益を加えた四半期純損益は、4,348億円と増益になりました。

【セグメント別のポイント】

- スライド3と4では、各セグメント別の業績をご説明いたします。
- まず、東京電力ホールディングスの業績です。
- 売上高は、東京電力エナジーパートナーへの卸電力販売の減少などにより、前年同期比504億円減の5,351億円となりました。
- また、経常利益は306億円減の1,483億円となりました。
- 次に、東京電力フュエル&パワーの業績です。
- 売上高は、2019年4月から火力発電事業等がJERAに承継されたことなどにより前年同期比1兆4,476億円減の65億円となりました。
- 一方、経常利益は持分法適用会社であるJERAにおいて、燃料費調整制度の期ずれ影響の好転により増益となったことなどから588億円増の623億円となりました。

- 続いて、東京電力パワーグリッドの業績です。
- 売上高は、託送収益が減少したことなどから、前年同期比 74 億円減の 1 兆 2, 882 億円となりました。
- 一方、経常利益は、修繕費・減価償却費が減少したことなどから、122 億円増の 1, 753 億円となりました。
- 最後に、東京電力エナジーパートナーの業績です。
- 売上高は、販売電力量の減少などにより、前年同期比 233 億円減の 4 兆 2, 122 億円となりました。
- 一方、経常利益は、東京電力ホールディングスからの購入電力の減少などにより、152 億円増の 546 億円となりました。
- なお、連結及びセグメント別の前年同期比較の資料をスライド 9 以降に参考として添付しております。

【連結特別損益の概要】

- 次に連結特別損益についてご説明します。スライド 5 をご覧ください。
- 台風 15 号、19 号、21 号による影響については、後ほど詳細をご説明させていただきますが、まずは全体像をお示しいたします。
- 特別利益は前期から追加計上はなく、合計で 3, 672 億円を計上いたしました。
- 一方、特別損失は 2, 053 億円を計上いたしました。
- 当期、新たに東北地方太平洋沖地震により被災した資産の復旧等に要する費用の見積り増や、台風 15 号、19 号、21 号により被災した資産の復旧等に要する費用を災害特別損失及び財産偶発損として、合計 278 億円計上しております。
- また、原子力損害賠償費は、前期から 229 億円を追加計上し、819 億円計上しております。
- 福島第二廃止損失 956 億円は、第 1 四半期に計上したものとなります。
- これにより、特別損益は 1, 618 億円の利益となりました。

【財産偶発損・災害特別損失】

- 続いて、スライド 6 をご覧ください。
- 2019 年 9 月から 10 月に発生した台風 15 号、19 号、21 号による財産偶発損及び災害特別損失についてご説明させていただきます。
- 前期は、台風 15 号により被災した資産の復旧等に要する費用として、118 億円を災害特別損失に

計上しておりました。

- 当期では、災害特別損失に台風15号、19号、21号により被災した資産の復旧等に要する費用として、54億円増額の173億円を計上しております。
- 前期からの主な増加要因は、10月に発生した台風19号、21号により他電力会社からの応援が延長したことや、水力発電所の設備被害が発生したこと等によるものです。
- また、東北地方太平洋沖地震関連費用として、101億円を計上しております。これは、福島第一原子力発電所の復旧費用の見積りが増加したことによるものです。
- なお、滅失した電柱などの資産簿価相当を財産偶発損として計上しております。

【連結財政状態の概要】

- 続いて、連結財政状態について、スライド7をご覧ください。
- 自己資本比率は、前年度末より4.8ポイント改善し27.4%となりました。これは、四半期純利益が引き続き黒字であったことで純資産残高が増加したことに加え、東京電力フュエル&パワーの借入金をJERAへ承継したことなどにより、負債残高が減少したことなどによるものです。

【2020年3月期業績予想】

- 最後に、2020年3月期の業績予想については、引き続き、未定としております。

【参考資料（スライド8以降）、補足資料（スライド14以降）】

- スライド8以降は参考資料および補足資料です。

以 上